

## 放課後等デイサービスぽっけ

三月、放課後等デイサービスぽっけが開所しました。建物内には、子どもたちが自由に過ごせるプレイルームをはじめ、個々に合わせて療育を行う療育室、相談室や静養室、シヤワールームも完備しています。私たちは、ここで過ごす子供達の姿を想像しながら、準備をすすめてきました。

「ぽっけ」という名前には、『子どもたちひとりひとりが、自分のポケットに持っているモノをここで出せるように、ここで感じたモノを自分のポケットにしまっけて帰れるように』という想いがこめられています。

ぽっけでは、その想いのもと、一日の内限られた時間ではありますが、ここで過ごす子どもたちの個性を大切に、様々な活動や遊びを通して、可能性を引き出し、子どもたちのよりよい未来に繋がるお手伝いをしていきたいと思えます。



広報誌

## ほんじょう

**基本方針**  
利用者の豊かな生活を  
提供するための資質の向上

**2021年号外**  
令和3年2月23日発行  
発行元 障害者支援施設  
本城苑

豊後大野市三重町本城  
2054番地  
TEL 0974-22-3230  
FAX 0974-22-3606

## 本城苑

### 挨拶

施設長 廣瀬政明

年が明け、梅の花も開花し、春が近づく季節となりました。家族会の皆様に直接お会いして、利用者の状況や、施設の事業についてお話ししたいところではありますが、「新型コロナウイルス」の感染の終息がまだわからない状況です。

2月に入り、大分県では感染者が日々減少傾向で、少し安心しております。幸い、施設内では、「感染者」を確認することはなく、このまま冬を終えることができると毎日考えております。

春恒例の「家族会総会」「花見交流会」も、新しい生活様式を進めるためには、開催することができません。4月には、ワクチン接種も予定されて



**お待ちしております**

定員10名  
小学1年生～  
高校3年生

いるようですが、大人数で会食をすること、会議を開くこともかたや、そのため、「ほんじょう」号外を発行し、現在の施設の様子などをお知らせすることをいたしました。

また、家族会役員とご相談しながら、秋ごろにでも、皆さまとお会いできる機会を考えておりますが、「新型コロナウイルス」の状況次第となります。就任して4月で3年目を迎えますが、何もできず歯がゆい思いでいっばいですが、また、検査用キットも施設へ配布が終わり、早期の発見が可能となりました。



唯一、地元の就学児童・生徒さんのための新事業「放課後等デイサービス」を3月より開始することが予定されています。子供たちの声が聞こえる施設として、職員一同準備してまいりました。家族会の皆様にもぜひ、ご覧いただきたくお考えしておりますので、近くにお越しの際は、お立ち寄りいただければ幸いです。現状では、「密」を避けてのお披露目となりますことをご了承ください。

## ご利用方法

- 見学・体験・相談
- 相談支援事業所相談
- はじめての方  
受給者証有 → 福祉課相談・申請
- サービス利用計画作成・提出
- 利用契約・個別指導内容  
利用頻度・検討  
受給者証
- 利用開始

〒879-7144  
大分県豊後大野市三重町本城2060番地1  
☎0974(22)3553  
☎0974(22)3002



## 編集後記

『ほんじょう』の発行にたずさわり、約2年が経とうとしております。今回、いろいろな職種の方々に原稿を依頼して、それぞれの思いを伝える事ができたのではないかと思います。利用者さんの事はもちろん、みんなの大切な誰かを守るため、今を必死に戦っていきましょう！

〜想い出〜

懐かしい写真がありましたので掲載させていただきます。就職して8年目。利用者旅行で「ヤングセンター」に行った時のもので、当時は利用者の皆さんも若く元気で、夕食会もカラオケをみんなで歌っていたことが思い出されます。昭和・平成・令和と時代は流れ、自分も若かった時代は過ぎていきました。本城苑は今後も事業を継続し、自分もこの職を離れるまで懸命に努めてまいります。

最後に、障害者支援施設本城苑の運営に関しまして、ご理解とご協力をお願いし、皆様の健康を祈念して、号外の挨拶といたします。



## 顔の見える支援

所長 足立貞二

昨年4月に「就業・生活支援センターつばさ」「サポートセンターサライ」就労継続支援B型「本城苑作業所Beハウス」「グループホームコスモス」という在宅4事業所の所長を拝命いたしました足立です。

このコロナ禍での就任でありましたので、皆様にはご挨拶が出来ずに早1年が過ぎようとしております。

私は顔の見える支援を信条としております。利用者の皆様の信頼を得るためには直接お会いしてお話を聞くことが必須だと信じておりますので各事業所の職員にも実践していただいております。また支援事業所とは違い、自宅より通って来ていただいているBeハウスの職員には、この人がいるから会いに行きたいというような魅力のある個性豊かな職員になって欲しい、それこそが作業所の魅力になるという事を常々伝えてまいりました。これを個々の職員が理解し実践した結果、今年度新しく5名の方の利用が始まりました。まだしばらくはコロナ禍で行動が制限され楽しみの少ない現在ですが、1日に1回は笑顔になれるような支援を目指して職員一同努力していく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

## 障害福祉にかかわって

支援員 安藤 有佳

保育士として十一年働き、今年度から本城苑で働いています。今まで特性を持つお子さんの支援にも関わりがありましたが、大人との違いにはじめは不安でした。支援の難しさを感じながらも、一緒に過ごす中で、思いを汲み取れたり、声かけに応えてもらえたりと、支援の楽しさを感じる事ができるようになりました。利用者さんの様々な声に耳を傾け、些細な心の動きに気付き、受け止め、寄り添えるような、細やかな支援ができるように心がけていきたいです。

## コロナウィルスがもたらしたものの

家族会会長 渡邊福吉

コロナウィルスがもたらしたものは何か、たまに考えることがあります。入所施設においては、ウィルスを持ち込まない事が優先されます。入所者に携わる機会の多い職員・その家族の方々も私達以上に、かからない・持ち込まない為に行動に注意を払っている事と思います。家族まで巻き込む行動規制、そこには見えない心の繋がり、また入所者に対する思い、基本理念があつてできる事だと思えます。心から感謝します。今は継続し、感染防止と一緒に努めましょう。

## 今できることを考えて

支援部長 田中恭子

元氣よく手をあげ「買物行きてえわあ」月始めの利用者との話し合い会はAさんの発言から始まります。今は期待に添える回答ができません。この1年、コロナの影響でほとんどの行事が中止となり、皆さんで集い食事をすることもできませんでした。ご家族との面会もリモートや電話のみ。寂しい思いをされています。制限の多い生活ですが、少しでも楽しく過ごせるよう、職員が知恵を出し合い「今できる事」を考えて、毎日支援していきたいと思えます。

## 利用者さんのために

サービス管理責任者 寺次初美

今年度よりサービス管理責任者になりました。利用者さんの「あーしたいな。こうなったらいいな」が叶えられる本城苑になっていけたらと思っております。このコロナ禍で自己決定もままならないほど、いろいろな事に制限がかかっています。それぞれの職種が、利用者さんがストレスなく楽しく生活できるよう、食事、健康、生活、日中の活動に意見を出し合い取り組んでいます。利用者さんについての要望等ありましたら、遠慮なくお申し出くださいますよう、お願い致します。

## 園芸班

今年度は、季節野菜の栽培と施設の清掃を中心に活動を行ってきました。利用者の方々も、作業においては役割を理解し意識的に参加して作業も自分たちでスムーズに行えるようになりました。自分達で育てた野菜の収穫、清掃においては「綺麗にしてくれてありがとう」の声に園芸班の利用者の皆さんも喜びを感じております。今後は、継続して季節野菜の栽培を通して無理のないように、それぞれ理解した役割を伸ばせるよう、サポートしていきたいと思えます。

## リハビリ班

今年1年コロナ禍の中であつたが、毎日元気に過ごす事ができました。日々の活動では、外気浴・散歩・歩行器使用の歩行訓練・手すり運動など、利用者の状態に合わせて活動支援している。しかし、このご時世により窮屈な思いをされ、外出行事や楽しみが減っている現状である。また、運動量が減り転倒の恐れ、そして重度高齢化も進み、常に見守り・付き添う事を重視した。今後は、個々の状態にあつたりハビリを行い、機能低下を少しでも軽減できるように、意思決定支援を大切にしたいと思えます。

## 「コロナに負けないように」

栄養士 三浦和美

今年はコロナ一色の一年で、外出もできず、利用者の皆さんも疲れきりかもしれません。しかし、この病気に負けないバランスのとれた食事による体力作りが大切です。高齢化に伴う歯の欠損や治療食など問題は山積みですが、まだまだ負けません。そんな中「利用者との話し合い会」では食べたい物のオンパレード。笑顔が見られます。月1回の弁当の日や選択メニュー。中庭での大鍋の日など、「美味しかったよ。おかわり」の声を楽しみに、厨房一丸となり頑張ります。

## 医務室での今年一年を振り返って

看護師 姫嶋芳美

今年は、コロナ禍で、大変な一年でした。利用者の皆さんは、大変窮屈な思いをされたことと思います。早く、この状況から脱したいものです。私達看護師も、利用者の方がコロナにかからないように、最大限の努力をし、自分達もかからないように心がけています。診察では、代診で済まされる方は看護師が状態報告をし、内服を出してもらっています。

今後ワクチン接種等でコロナが落ち着けば、以前のように旅行や買い物等、楽しい日々が戻ることを祈っています。

## 創作班

私達創作班は、商品作り、販売を通し、少しずつ活動を知っていただき、市から依頼を受けたマスク作りで、地域の方々のお役に立つこともできました。この事が、私達の大きな力となり、利用者さんの自信にもつながりました。

これからも地域の方々に、喜んでいただける商品を作り、もっともっと私達の施設（本城苑）を知っていただけるよう、今後も利用者の皆さんとともに楽しみながら、日々の活動に取り組んで行きたいと思えます。

## 顔認証温度検知システム

2月より、本城苑の玄関と、職員玄関に1台ずつ、顔認証温度検知システムを設置しました。AI（人工知能）によって顔を認証し、外来者や職員の体温を測定します。コロナ対策として、有効に使っていききたいと思えます。

